

沼津市「認知症を知るための講演会」開催業務に関する質問への回答

番号	質問事項	回答
1	今回の委託業務における貴市の目的の中で、市にとって「自分事として捉える」とは具体的にどのような状態を指しているか。または、市にとって理想としている状態とはどのようなことをいうのか。	「自分事として捉える」とは、市民ひとりひとりが「自身が認知症当事者や介護者になり得る」ということを自覚し、正しい理解に向けた行動に移せる姿を指します。また、これは市としての理想の状態でもあります。
2	参加要領「別表 評価項目」「(1) 企画提案力」の「①」に「本業務に対する基本的な考え方が適切であるか」とあるが、貴市が考える「適切さ」と具体的にどのような状態を示すのか。	公募仕様書の3. 目的に沿った考え方が提案内容に反映されている状態を「適切である」とします。
3	参加要領「別表 評価項目」「(1) 企画提案力」の「②」に「認知症に対する意識の変容を促すような提案・企画となっているか」とあるが、その「変容」とは、起点（現状）はどのような状態だと捉え、終点（目標）はどのような状態と考えているか。	認知症に対する関心がない方々が、自分事として捉えることができるように変化していくことをイメージしています。
4	対象者は「市内在勤在住の20代～50代」とあるが、20代と50代を年齢層の固まりとして捉えた場合、世代の考え方やニーズはかなり異なると思われる。20代～50代のうち、もっとも呼び込みたい年代層のターゲットはあるか。そうである場合具体的理由を教えてください。年代層として狙いがいない場合、講演者のキャラクターによって訴求する年代層が大きく異なり、市方針とのギャップが生まれる可能性があるため、ない場合でもその考えを教えてください。	認知症は誰もがなる病気であることを考えると、多くの世代の方に知っていただきたいと考えますが、発症年齢等を考慮した場合には、経済的な問題等を抱えやすい30代～50代の年代の方々に参加していただきたいと考えています。

	い。	
5	講演者、講演内容によって、呼び込める来場者の数や層も異なると思うが、市は「集客数」と「認知症に対する理解度（貴市が求める「変容」によりますが）」とでは、どちらの重要度が高いか。	どちらも重要度は同等に高いと考えています。
6	講演会以外の企画（展示コーナー設置、相談コーナー、抽選企画等々）を提案内容に加えても構わないか。また、それは加点評価されるか。	講演会以外の企画については制限を設けていないため、提案限度額内で提案していただいても構いません。また、それらの評価については、参加要領別表、評価項目（1）企画提案力の配点において参考といたします。
7	講演会は1人（単独）の講演者を想定しているか、それとも複数の講演者の組み合わせでも提案は可能か。	提案限度額内であれば、組み合わせでも問題ありません。
8	広報・周知に関して、受託者の負担以外に、市側が保有する媒体・広報ツール等の利活用はどの範囲で考えているか。	市長定例記者会見、広報ぬまづ、市SNSでの周知を予定しています。
9	対象者の「市内在勤在住の20代～50代」への周知にあたり、市として特に期待する参加方法（事前予約制、当日参加可能など）はあるか。	受託者との協議により決定しますが、事前予約制による参加を想定しています。
10	公募仕様書5. 業務内容「(4) 実施報告」に「業務終了後速やかに、業務期間中の委託者との協議記録等、行事開催日当日の 実施内容、記録写真及び集計結果等を添えて業務完了報告書を提出すること」とあるが、応募人数や参加人数の報告以外に、「集計結果」は具体的にどのようなデータを想定しているか。	受託者との相談になりますが、当日アンケートの集計結果を想定しています。
11	質問の回答はいつ市ホームページに掲載されるのか。また、掲載時の連	参加要領5. 契約候補者選定スケジュールのとおりです。なお、個別の連絡

	絡は質問者にもらえるか。個別掲載ページの URL は教えてもらえるか。	はいたしません。
--	-------------------------------------	----------